大阪教育大学

修学支援センター活動報告

2024年度　第５号

目次

巻頭言・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・大内田　裕（１）

障がい学生修学支援ルーム活動報告・・・・・・茂野　仁美（２）

カウンセリングルーム活動報告・・・・・・・・奥田紗史美（７）

活動報告総括・・・・・・・・・・・・・茂野　仁美・奥田紗史美（１３）

２０２４年度活動日程報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・（２２）

修学支援センタースタッフ一覧・・・・・・・・・・・・・・（２３）

大阪教育大学修学支援センター

巻頭言

修学支援センター長　大内田裕

皆さま、令和 6 年度の修学支援センター活動報告書をお届けします。本年度は、コロナ禍から徐々に日常を取り戻しながらも、その経験から得た学びを活かした新たな支援の形を模索した一年となりました。

令和 3 年の障害者差別解消法改正により、令和 6 年度から私立大学においても障害学生への合理的配慮の提供が義務化されました。これにより、全国の高等教育機関における障害学生支援の均質化が進み、支援の在り方も新たな段階に入ったと言えるでしょう。本センターにも他大学からの見学や相談があり、培ってきたノウハウの共有を積極的に行ってまいりました。

特筆すべき取り組みとして、本年度は筑波技術大学との包括連携協定を締結しました。視覚障害・聴覚障害の学生に対する専門的な支援技術を持つ筑波技術大学と連携することで、より高度な支援技術の習得や情報交換が可能となりました。早速、教職員向け研修会を共同開催し、点字教材作成や手話通訳の技術向上に取り組んでいます。

コロナ禍で途絶えていた対面イベントも続々と復活させています。障害学生と支援学生の交流会は 3 年ぶりの開催となり、オンラインでは得られない関係性の構築に大きく貢献しました。また、支援技術展示会も対面形式で実施し、最新の支援機器に実際に触れる機会を提供できたことは大きな成果です。

一方で、コロナ禍で培ったオンライン支援のノウハウも無駄にせず、ハイブリッド形式でのピアサポート研修や、オンデマンド教材の充実など、時間や場所に縛られない支援体制も継続して強化しています。「いつでも、どこでも、必要な支援を」という理念のもと、対面とオンラインのベストミックスを追求しています。

課題としては、増加する精神・発達障害のある学生への対応が挙げられます。個別性が高く、見えにくい障害への理解促進と適切な支援方法の確立は、引き続き重点的に取り組むべき事項です。

最後になりますが、本センターの活動は多くの教職員、学生、そして地域の皆様のご協力なくしては成り立ちません。この場を借りて心より感謝申し上げます。令和 7 年度も「誰もが学びやすい大学」の実現に向けて、より一層努力してまいります。

2024年度（令和6年度）障害学生修学支援ルーム活動報告

障がい学生修学支援ルームコーディネーター　茂野仁美

1. 月別利用状況（2024年4月～2025年3月）

2024年度の障がい学生修学支援ルームの利用学生の推移は，以下の表1に示す通りであった。前年度の利用学生58名から，21名が卒業，在学生37名のうち，2024年度当初の支援継続希望学生は27名となった。継続を希望しなかった10名の学生のうち4名が前年度3月までに休学の届けを行っており，1名は後期の復学後に再度支援利用に至っている（他3名は1年間の休学のため，2024年度中の利用再開の対象外）。支援継続希望者のキャンパスごとの人数は，柏原キャンパス26名，天王寺キャンパス1名であった。一方，新規利用学生数については，前年度（表2）と比較し11 月の段階で、昨年度の利用累計数を上回り，大幅に増加，44名であった。継続学生と合わせると合計71名が2024年度の利用学生数である。

障がい種別ごとの利用学生数は，例年と同様に精神障がいを理由として利用申し込みに至る学生が多かった。4月は新規申し込みが多い時期であるが，前期の期末には課題が思うように進まないことや精神的な不調で出席が困難であることを科目担当教員に訴えたことをきっかけに，支援ルームの紹介を受け，相談に至るケースもあった。一方で，後期の期末は課題ができないことや出席困難を理由とした相談は少なく，1月の相談件数にあるのは，次年度の教育実習に備えた新規相談であった。天王寺キャンパスについては，例年よりも前期に続けて新規相談があり，最終的な利用数はキャンパスごとの利用数の記録が残っている令和元年度から一番多くなっている。

年別の推移については，参考の表3及び，図1に示している。本学に在籍する全学生のうち障がい学生は 1.64%となる。日本学生支援機構の全国の大学に在籍する障がい学生の割合は，1.79%となっており，休学や症状が落ち着いたり，4回生となって卒業論文だけの取り組みだけとなったことを理由に支援利用を終了した学生も含めると，おおむね同様の傾向であることがわかる。精神障がいの相談ケースが，2024年度は急激に増加した。これも，近年の日本学生支援機構の調査の傾向と一致している結果であった。

表1.2024年度 障がい学生修学支援ルーム利用学生の推移（月）

2024年度	視覚	聴覚	肢体不自由	病弱・虚弱	重複	発達	精神	その他	柏原	天王寺	その他	新規	累計
継続	1			1	4	4	13	4	26	1			27
4月		2		3	1	1	5	2	12	2		14	41
5月					1	1	3	1	2	4		6	47
6月				2				1	1	2		3	50
7月							4		3	1		4	54
8月												0	54
9月						1	1		2			2	56
10月							1		1			1	57
11月					1	1	2	1	5			5	62
12月						1	2		3			3	65
1月				1		1	3	1	4	2		6	71
2月												0	71
3月												0	71
計	1	2	0	7	7	10	34	10	59	12	0	44	71

※複数の障がい項目にまたがる者は重複として扱う

表2.2023年度 障がい学生修学支援ルーム利用学生の推移（月）

2023年度	視覚	聴覚	肢体不自由	病弱	重複	発達	精神	その他	柏原	天王寺	その他	新規	累計
継続				3		6	14	4	23	4			27
4月	1	2		2		1	2	2	7	3		10	37
5月				1	1			1	2	1		3	40
6月							4		4			4	44
7月							2	1	3			3	47
8月												0	47
9月						1				1		1	48
10月					1		1		2			2	50
11月							2	2	3	1		4	54
12月						1			1			1	55
1月						1			1			1	56
2月								2	2			2	58
3月												0	58
計	1	2	0	6	2	10	25	12	48	10	0	31	58

※複数の障がい項目にまたがる者は重複として扱う

〈参考〉

表3. 障がい学生修学支援ルーム利用学生の推移（年）

年度（和暦）	年度（西暦）	学生数	障がい学生数	在籍比率	視覚	聴覚	肢体不自由	病弱	重複	発達	精神	その他	柏原	天王寺	その他	新規	累計
H24	2012		6		1	4				1							
H25	2013		7		1	4				2							
H26	2014		14		1	6	1			2	1	3					
H27	2015		16		2	6	1			3	1	3					
H28	2016		18		1	3	1			7	1	5					
H29	2017		23		1	8	1	2		6	3	2					
H30	2018	4605	42	0.91%	2	9	2	1		7	7	14					
R1	2019	4496	60	1.33%	4	8	2	6	4	6	17	13	51	5	4	21	39
R2	2020	4349	77	1.77%	3	8	0	5	5	4	15	6	38	7	1	31	46
R3	2021	4350	65	1%	2	7	1	2	0	9	15	6	36	6	0	26	42
R4	2022	4317	52	1%	2	4	1	4	0	8	22	11	44	8	0	23	52
R5	2023	4303	58	1%	1	2	0	6	2	10	25	12	48	10	0	31	58
R6	2024	4308	71	2%	1	2	0	7	7	10	34	10	59	12	0	44	71

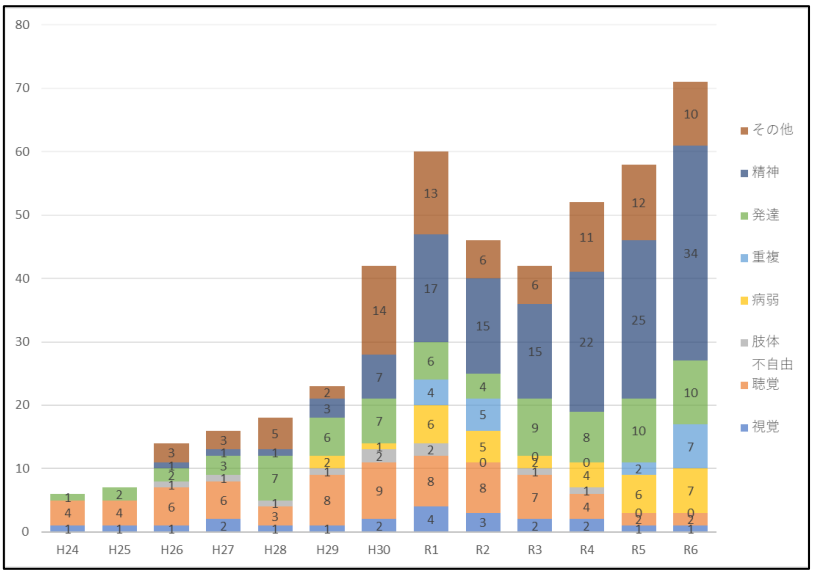


図1.障がい学生修学支援ルーム利用学生の推移（年）

2. 利用方法別状況（2023年4月～2024年3月）

表4および図2は利用方法別の累計数である。利用学生数が増加したこともあり，対応回数も大幅に増加した。4月と9月は新学期の準備のために利用学生の障がい種すべてにおいて面談後のメール対応，教員，他部署との連絡調整が多い。加えて，9月は教育実習中の学生のサポートが断続的に必要であったことも，利用数の増加につながっている。

表4. 2024年度障がい学生修学支援ルーム利用方法別累計（月）

	面談								遠隔（電話・メール等）								教員・他部署との連絡調整								
2024年度	視覚	聴覚	肢体不自由	病弱・虚弱	重複	発達	精神	その他	視覚	聴覚	肢体不自由	病弱	重複	発達	精神	その他	視覚	聴覚	肢体不自由	病弱	重複	発達	精神	その他	累計
4月	4	2		5	3	3	8	1	12	7		20	7	19	33	22	18	4		44	19	9	29	28	297
5月	2			3	2	4	8	3	2			2	4	7	5	9				4	2	12	10	12	91
6月				2	1	3	6					5	3	1	10					6	4	4	9		54
7月	1			1		2	10		2			5		1	23					9		5	38		97
8月								1	5					4	7	7						1	1	7	33
9月	2	1		2	4	7	9	2	5	3		4	17	25	27	23	3	1		3	11	17	55	24	245
10月				1		5	4	3					3	9	9	5				3	4	8	11	3	68
11月				1	1	7	3	1	1				5	9	11	7				1	5	11	11	7	81
12月						5	4							3	10							4	11		37
1月				1		3	7	1						4	17							4	9		46
2月	2					2	4							2	2						2	3	2		19
3月	1			1	1	3	7		4			5	3	9	7	3	3			5		5	12	4	73
計	12	3	0	17	12	44	70	12	31	10	0	41	42	93	161	76	24	5	0	75	47	83	198	85	1141

※学生本人への対応に加え，教員や部署間での連絡調整も含む

図2.2024年度障がい学生修学支援ルーム利用方法別累計（月）

3.主な取り組みと課題

（1）視覚障がい学生の情報保障やその他支援

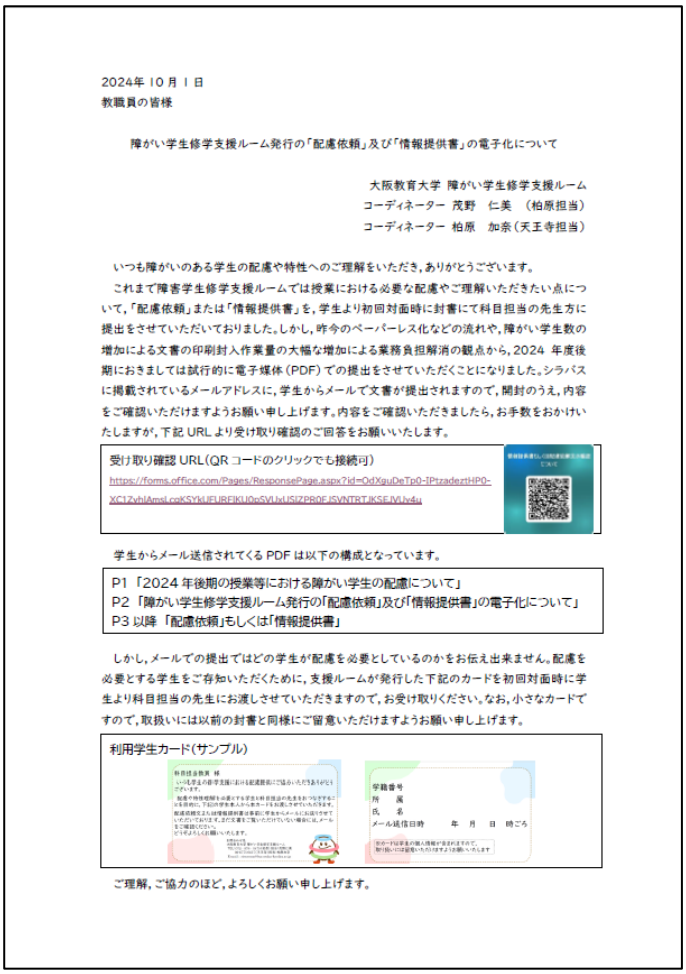
昨年度に引き続き，視覚障がい学生への情報保障として，資料のテキストデータ化に取り組んだ。タームで15回の授業が毎週2コマずつ行われる科目が多かったため，膨大な量の資料が教員から依頼されることがあった。また，当初，当該学生は柏原キャンパスでの受講を希望していたが，一部行事や，授業のうち数コマだけが天王寺キャンパスで行われるものがあった。年度当初に，行事に備えて，コーディネーターが天王寺キャンパスで手引き介助によるキャンパス内の案内を行い，利用することが多い教室の場所の案内を行った。夜間に数コマ行われた授業については，天王寺キャンパス担当のコーディネーターが手引き介助を行った。当該学生の所属コースの行事においては，

指導教員が手引き介助を行い対応を行った。

（2）情報提供書及び配慮依頼文の電子化

2024年度から天王寺キャンパス担当のコーディネーターの交代があり，2023年度末から開始する前期の授業に向けての面談や情報提供書及び配慮依頼文の発行を一時的に柏原キャンパス担当のコーディネーターが天王寺キャンパスの利用学生の対応も並行して行う時期が生じた。3月末から4月当初にかけて，授業開始に間に合うように新規相談を行いながら，文書の印刷，封入などの作業を行っていたが，これらの作業が勤務時間を大幅に超える状況が大きな課題となった。昨今，多くの場面でペーパーレス化がすすめられていることに加え，利用学生数が増加し，文書の印刷や封入作業量の増加による業務負担を解消することを目的に，これまで情報提供書や配慮依頼文は学生が紙媒体で科目担当者に提出していたものを，試行的に電子媒体（PDF）をメールに添付して提出する方法に変更した。しかし，メールでの提出では，配慮を必要とする学生を科目担当者が把握する機会が得られず，支援や理解を必要とする障がい学生への適切な対応が困難となるため，学生にはメールの送信後，初回授業で対面した際に，支援ルームが発行したカードに自分の学籍番号，所属，氏名，メール送信の日時を記入させて，お渡しする方法をとることとした。電子化の試行にあたっては，図3の文書をメールにて配布した。

小さなカードのため，一部の科目担当者からなくす心配についての問い合わせもあったが，大きなトラブルには至っていない。今後，電子化したことに対して教員からの意見を募りつつ，業務の効率化を図り，障がい学生自身への支援内容の充実の方にリソースを割けるように検証が必要である。



2024年 10 月 1 日
教職員の皆様

障がい学生修学支援ルーム発行の「配慮依頼」及び「情報提供書」の電子化について

大阪教育大学 障がい学生修学支援ルーム
コーディネーター 茂野　仁美　（柏原担当）
コーディネーター 柏原　加奈（天王寺担当）

いつも障がいのある学生の配慮や特性へのご理解をいただき，ありがとうございます。
これまで障害学生修学支援ルームでは授業における必要な配慮やご理解いただきたい点について，「配慮依頼」または「情報提供書」を，学生より初回対面時に封書にて科目担当の先生方に提出をさせていただいておりました。しかし，昨今のペーパーレス化などの流れや，障がい学生数の増加による文書の印刷封入作業量の大幅な増加による業務負担解消の観点から，2024 年度後期におきましては試行的に電子媒体（PDF）での提出をさせていただくことになりました。シラバスに掲載されているメールアドレスに，学生からメールで文書が提出されますので，開封のうえ，内容をご確認いただけますようお願い申し上げます。内容をご確認いただきましたら，お手数をおかけいたしますが，下記 URL より受け取り確認のご回答をお願いいたします。

受け取り確認 URL（QR コードのクリックでも接続可）
https://forms.office.com/Pages/ResponsePage.aspx?id=OdXguDeTp0-IPtzadeztHP0-XC1ZvhJAmsLcqKSYkUFURFIKUQpSVUxUSIZPR0FJSVNTRTJKSEJVLv4u

学生からメール送信されてくる PDF は以下の構成となっています。

P1 「2024 年後期の授業等における障がい学生の配慮について」
P2 「障がい学生修学支援ルーム発行の「配慮依頼」及び「情報提供書」の電子化について」
P3 以降 「配慮依頼」もしくは「情報提供書」

しかし，メールでの提出ではどの学生が配慮を必要としているのかをお伝え出来ません。配慮を必要とする学生をご存知いただくために，支援ルームが発行した下記のカードを初回対面時に学生より科目担当の先生にお渡しさせていただきますので，お受け取りください。なお，小さなカードですので，取扱いには以前の封書と同様にご留意いただけますようお願い申し上げます。

利用学生カード（サンプル）

学籍番号
所　属
氏　名
メール送信日時　　年　月　日　時ごろ

ご理解，ご協力のほど，よろしくお願い申し上げます。

図3.障がい学生修学支援ルーム発行の
「配慮依頼」及び「情報提供書の電子化について

（3）精神障がいや発達障がい及びその疑い，その他，重複の学生の修学支援の課題

昨年度に引き続き，各期末に支援ルームの利用に至っていない学生，課題が思うように進まないために期限の延長を教員に相談したことをきっかけに，教員や関係部署から紹介されて相談に至

るケースが後期はなかったものの，前期にはまだ多く見られた。紹介のきっかけの中には，支援ルームへの相談がないまま，直接科目担当者に診断書を送って配慮を求めるケースがあり，ルームの利用学生であるかについて問い合わせが寄せられることがあった。これは，新入生オリエンテーションで障がい学生修学支援ルームの紹介をおこなっているものの，学生が当事者となった際に相談先として認識していないのか，相談に対するハードルが高いことが考えられる。

精神やその他，重複の学生へのサポートでは課題が多い。ルームでの相談の流れなどの説明を視覚的に伝えられる資料を 2024 年度から用いているが，それでも「配慮に至るまでの流れがわからない」「しんどいから相談しているのに，なぜ自分で科目担当者と連絡を取らなければならないのか」というクレーム的なことを訴える学生がみられた。情報提供書をメールで学生自身が伝えることを基本として，そのメールの文例や，必ず伝えるべきことなどもマニュアル化して学生には提供しているものの，支援ルームに相談すれば，自分のしんどいことは代行してやってもらえるものと思い込んでいたケースもある。また，情報提供書は自ら送っていたが，それに対する科目担当者からの返信には返答をせず，配慮を受けられなかったという思い込みが生じていることもあった。

精神的な問題の学生の中には，物事のとらえ方が他責的に偏った状態の学生がみられる。もともとの本人の性格や行動傾向なのか，精神障がいによるものかは不明ではあるが，精神障がいによるものであれば，まずは療養を優先すべき状態であり，指導教員からまずは療養を勧めるのが良いケースだと言える。

この他，発達障がいの特性によって，一見するとわがままや自分勝手なように見える行動をしてしまう学生について，教員から支援ルームに支援方法の問い合わせではなく，修学面のサポートの範囲を超える内容で，教員自身の困惑を連絡してこられるケースもあった。学生への直接的な指導は指導教員を中心に行われるものだとすると，こちらに訴える内容ではなく，専攻内などで指導上の問題として取り扱っていただけるような仕組みにしていくことも課題だと考えられることもあった。

（4）天王寺キャンパス担当コーディネーターの交代

天王寺キャンパス担当コーディネーターの退職により，2024年度より新任のコーディネーターが着任した。2021年度の報告書において，コーディネーター体制の交代の課題として，コーディネーター間での情報共有の在り方や業務の引き継ぎを想定した情報整理が課題であるとして，その後整備してきたことにより，比較的スムーズに新任コーディネーターが業務に取り組めたと考えられる。ただし，新任コーディネーターは本学の卒業生で，障がい学生修学支援ルームのサポート学生であったことから，パソコンテイクなどの情報保障の知識を有しており，職員としての業務のイメージも持ちやすかったことも，スムーズに業務に着手することができる要因となったことが考えられる。今後，コーディネーターの交代だけでなく，増員を見越して考えると，必ずしも本学の障がい学生修学支援ルームの取り組みのイメージのある者が着任するとは言えないため，引き続き，より効率的な情報共有や情報整理の在り方を課題として取り組んでいく必要がある。

2023 年度（令和 5 年度）カウンセリングルーム活動報告

カウンセラー　奥田紗史美

1. はじめに

修学支援センターも発足から 5 年目を迎え，大学全体の学生支援機能を支える学生総合支援ネットワークの一員として，大きな役割を果たすに至っている。カウンセリングルームはその一部門として，個別の学生相談を中心としながら，教職員や時に保護者も含む学生を取り巻く関係者とも対話をしつつ，学生一人一人の学びを支える実践活動を日々行っている。

令和 5 年度は，前年度 3 月に，大学時代にコロナ禍を体験した学生の多くが卒業したため，大学生活への直接的な影響を語る学生は少なくなった。一見学生たちはコロナ前と大差ない学生生活を謳歌しているようにもみえる。しかし，自分自身を見つめる過程で過去を振り返る中で，時として，家庭生活や中高時代に影響を及ぼした出来事として浮上することはままある。コロナ禍は過ぎ去った過去ではなく，現在進行形で青年期の若い心に影響を及ぼしていると考えるべきであろう。

カウンセリングルームでは，相談内容の守秘性が高く必ず密室で行われるため，令和 6 年度も引き続き感染予防対策（パテーション，手の消毒，マスクの着用，換気）を行い，学生には任意での協力を求めた。風邪症状などがあるときには来談を控えるようにとのアナウンスも継続している。遠隔相談は根強いニーズがあることに加え，前年度の予約超過時にキャンパスをまたいだ相談に誘導する際に活用できることを踏まえ，特に問題なく運用できていることもあり，令和 6 年度も継続して活用することとした。

2. 利用状況

以下に，令和 6 年度カウンセリングルーム利用状況を報告する。

（1）年間相談状況

表1に，月別の新規来談者を相談内容別に分類し，再来談（終結後，別の主訴で改めて来談）と前年度より継続の来談者数とあわせて示した。述べ面接回数も月別に集計し，同表内に示した。令和 6 年度の新規来談者は 82 名，再来談は17 名，前年度からの継続が 41 名であり，令和 5 年度と比べると，新規件数が 10 件ほど減少した。それ以外は前年度とほぼ同じ傾向である。

例年，新規利用者は，長期休暇中は減少し，開講期間中に増加するが，令和 6 年度はなぜか 11 月に，一時的に新規申し込みが少なくなっており，全体の数の減少につながったと思われる。

表1　令和6年度　カウンセリングルーム　月別・相談内容別・来談年次別来談者数および面接回数(柏原・天王寺キャンパス)

令和7年3月31日現在

	新規来談者数							再来※	前年度から継続	総合計	延べ面接回数
	進路修学	心理性格	対人関係	心身健康	学生生活	その他	合計				
4月	2 (2)	2 (1)	1 (1)	3 (3)	1 (0)	1 (1)	10 (8)	5 (4)	37 (21)	52 (33)	88 (51)
5月	5 (3)	6 (4)	2 (2)	3 (1)	0 (0)	1 (0)	17 (10)	0 (0)	0 (0)	17 (10)	94 (62)
6月	1 (0)	1 (1)	3 (1)	2 (2)	0 (0)	2 (2)	9 (6)	2 (2)	1 (1)	12 (9)	88 (53)
7月	3 (2)	0 (0)	2 (0)	4 (3)	1 (0)	0 (0)	10 (5)	1 (1)	0 (0)	11 (6)	99 (55)
8月	0 (0)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	1 (1)	1 (0)	4 (3)	51 (29)
9月	4 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (1)	0 (0)	6 (2)	1 (0)	0 (0)	7 (2)	53 (31)
10月	0 (0)	1 (1)	3 (2)	3 (3)	1 (0)	0 (0)	8 (6)	2 (1)	1 (1)	11 (8)	94 (58)
11月	1 (1)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (1)	83 (49)
12月	2 (0)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	7 (5)	1 (1)	0 (0)	8 (6)	73 (45)
1月	3 (2)	1 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	5 (3)	3 (1)	0 (0)	8 (4)	98 (53)
2月	0 (0)	0 (0)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	3 (2)	0 (0)	0 (0)	3 (2)	66 (38)
3月	3 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (3)	1 (1)	1 (0)	5 (4)	69 (42)
計	24 (14)	12 (8)	18 (11)	17 (13)	4 (1)	7 (6)	82 (53)	17 (12)	41 (23)	140 (88)	956 (566)

(　)内は女子

※再来:一旦終結後、別の主訴で来談したこと

表 2 に,学生の所属別に,相談内容を集計したものを示した。また,在籍者数に対する来談者率を示した。相談内容としては,昨年と同様の傾向で,進路修学や心身健康に関する相談が多い。また,院生の利用率は社会人学生が一定数いることもあってか,学部生よりも低いのが通例であったが,6 年度は学部生のそれと遜色ない程度に高くなっており(昨年度は約 1.5%),大学院の方の学生サポート体制の変化なども含め,今後の動向を注視していきたい。

表2　令和6年度　カウンセリングルーム　課程等別・相談内容別来談件数および来談率(柏原)・天王寺キャンパス)

令和7年3月31日現在

	進路修学	心理性格	対人関係	心身健康	学生生活	その他	計	在籍者数	来談者率(%)
教員養成課程	11 (6)	7 (4)	13 (7)	12 (9)	2 (0)	2 (2)	47 (28)	2051 (1146)	2.29% (2.44%)
教育協働学科	15 (10)	11 (9)	11 (7)	14 (11)	7 (4)	3 (3)	61 (44)	1483 (841)	4.11% (5.23%)
初等教育(天王寺)	1 (0)	1 (0)	2 (1)	2 (1)	4 (2)	1 (1)	11 (5)	400 (244)	2.75% (2.05%)
学部計	27 (16)	19 (13)	26 (15)	28 (21)	13 (6)	6 (6)	119 (77)	3934 (2231)	3.02% (3.45%)
大学院	6 (1)	0 (0)	2 (1)	3 (3)	1 (0)	1 (0)	13 (5)	350 (161)	3.71% (3.11%)
特別支援教育特別専攻科	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	24 (14)	4.17% (7.14%)
その他	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	2 (2)		
卒業生	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (2)	0 (0)	1 (1)	5 (3)		
計	34 (18)	19 (13)	28 (16)	35 (26)	14 (6)	10 (9)	140 (88)	4308 (2406)	3.25% (3.66%)

(　)内は女子

表 3 に,学年(回生)別の来談件数と延べ来談回数を男女別に示した。例年通り女性の方が件数,回数ともに多い。回生別では 4 回生と,特に前年度多かった過年度生(昨年度実績 17 件 208 回)の利用が減少している。令和 5 年度末に長期利用の過年度生が複数名無事卒業したことが結果に反映されている。他の傾向は,先に述べたように大学院生の利用が増加していることを除いては,学部学生の傾向は概ね例年通りといえる。

表3　令和6年度　回生別来談件数および来談回数

令和7年3月31日現在

来談者内訳	来談件数			来談回数		
	男	女	計	男	女	計
1回生	4 (4)	14 (13)	18 (17)	15	66	81
2回生	6 (5)	18 (10)	24 (15)	47	117	164
3回生	9 (4)	17 (10)	26 (14)	87	115	202
4回生	13 (7)	20 (15)	33 (22)	130	69	199
5回生以上	4 (0)	3 (0)	7 (0)	20	19	39
初等(天王寺)	6 (3)	5 (2)	11 (5)	71	73	144
大学院1回生	5 (5)	4 (2)	9 (7)	10	38	48
大学院2回生	3 (1)	1 (0)	4 (1)	8	18	26
大学院3回生	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0	0	0
特専	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0	20	20
留学生(内数)	1 (0)	2 (2)	3 (2)	23	2	25
その他	2 (0)	5 (1)	7 (1)	2	31	33
計	52 (29)	88 (53)	140 (82)	390	566	956

(　)内　新規来談者数

表 4 に,回生別の相談内容を集計して示した。3,4 回生と大学院生に進路修学に関する相談が多いことが分かる。対して 1 回生では対人関係の悩みが多い。健康に関する相談は比較的まんべんなくあり,心理性格に関する相談は 4 回生が多くなっている。学年が上がると進路だけでなく心理性格に関する主訴での来談が多くなるのは昨年同様であり,就職活動やその関連での自己分析の影響で自分のパーソナリティについて振り返って考ええる機会を持ちやすいということが関係しているかもしれない。

表4　令和6年度　来談者の回生別相談内容

令和7年3月31日現在

区分	進路修学	心理性格	対人関係	心身健康	学生生活	その他	計
1回生	3 (3)	2 (2)	7 (6)	4 (4)	0 (0)	2 (2)	18 (17)
2回生	3 (2)	3 (2)	6 (6)	7 (3)	4 (2)	1 (0)	24 (15)
3回生	9 (7)	4 (2)	5 (1)	7 (4)	1 (0)	0 (0)	26 (14)
4回生	8 (6)	9 (5)	6 (3)	6 (5)	2 (1)	2 (2)	33 (22)
5回生以上	3 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	2 (0)	0 (0)	7 (0)
初等(天王寺)	1 (1)	1 (1)	2 (1)	2 (0)	4 (1)	1 (1)	11 (5)
大学院1回生	4 (4)	0 (0)	2 (1)	2 (1)	0 (0)	1 (1)	9 (7)
大学院2回生	2 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	4 (1)
大学院3回生以上	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
特専	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)
留学生(内数)	1 (1)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	3 (2)
その他	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (0)	0 (0)	3 (1)	7 (1)
計	34 (24)	19 (12)	28 (18)	35 (17)	14 (4)	10 (7)	140 (82)

(　)内　新規来談者数

（2）月別利用状況

表５は，月別の利用状況をキャンパス別に示したものである。図１にそのうち利用者数の月別推移を，図2に同じく述べ面接回数の推移を示した。

長期休み中に来談が落ち込む M 字型は例年通りの傾向であるものの，例年に比べてそこまで開講期間中の利用が多くならず，特に春休み中の利用が下がらず，全体的に M 字は維持しつつも，山はなだらかになっている。

表5　令和6年度年度カウンセリングルーム月別利用状況

	新規利用者数			当月利用者数			延べ面接回数			遠隔相談（電話・メール等）		
	柏原	天王寺	全学	柏原	天王寺	全学	柏原	天王寺	全学	柏原	天王寺	全学
4月	10	2	12	37	17	54	59	29	88	1	8	9
5月	15	2	17	39	12	51	72	22	94	2	3	5
6月	6	0	6	41	10	51	70	18	88	3	4	7
7月	7	3	10	34	16	50	65	34	99	5	7	12
8月	1	1	2	20	16	36	28	23	51	2	7	9
9月	4	2	6	24	16	40	29	24	53	3	9	12
10月	6	2	8	34	15	49	63	31	94	3	7	10
11月	1	1	2	25	16	41	51	32	83	0	8	8
12月	6	1	7	32	18	50	46	27	73	1	6	7
1月	4	1	5	34	19	53	64	34	98	1	7	8
2月	2	1	3	30	12	42	46	20	66	4	7	11
3月	1	2	3	24	16	40	43	26	69	3	8	11
計	63	18	81	374	183	557	636	320	956	28	81	109

※遠隔相談件数は内数

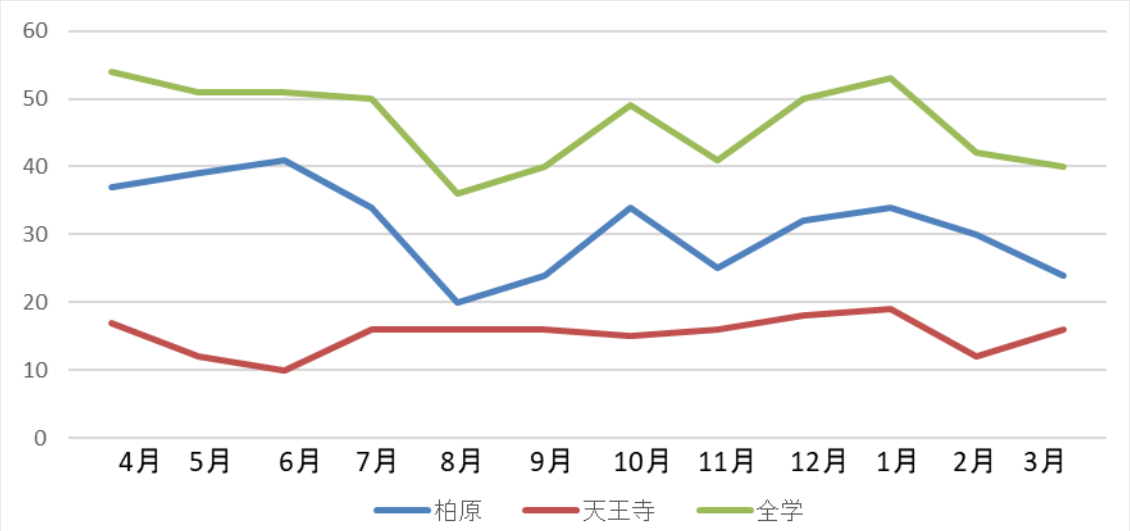


図１　令和6年度当月利用者数

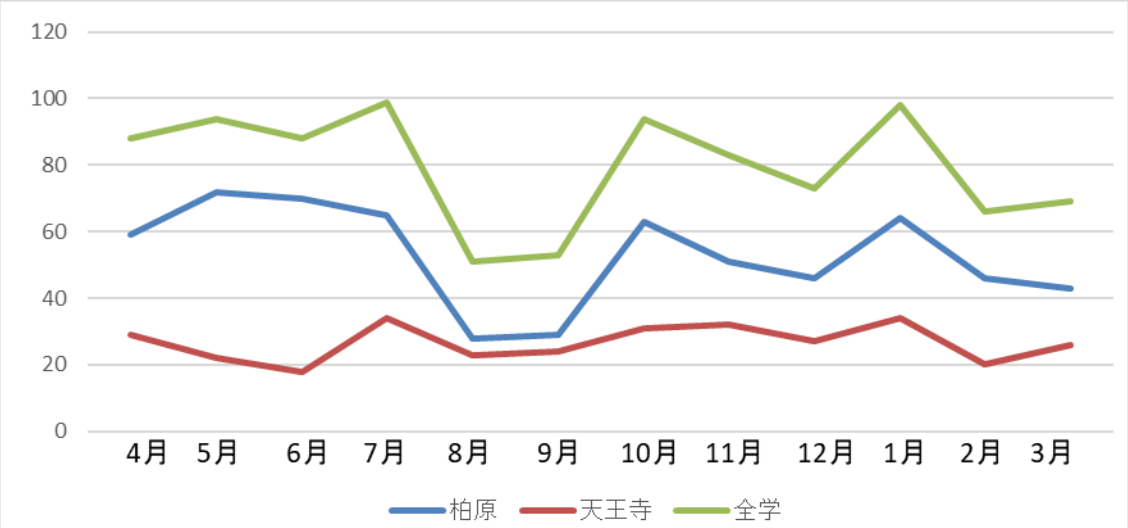
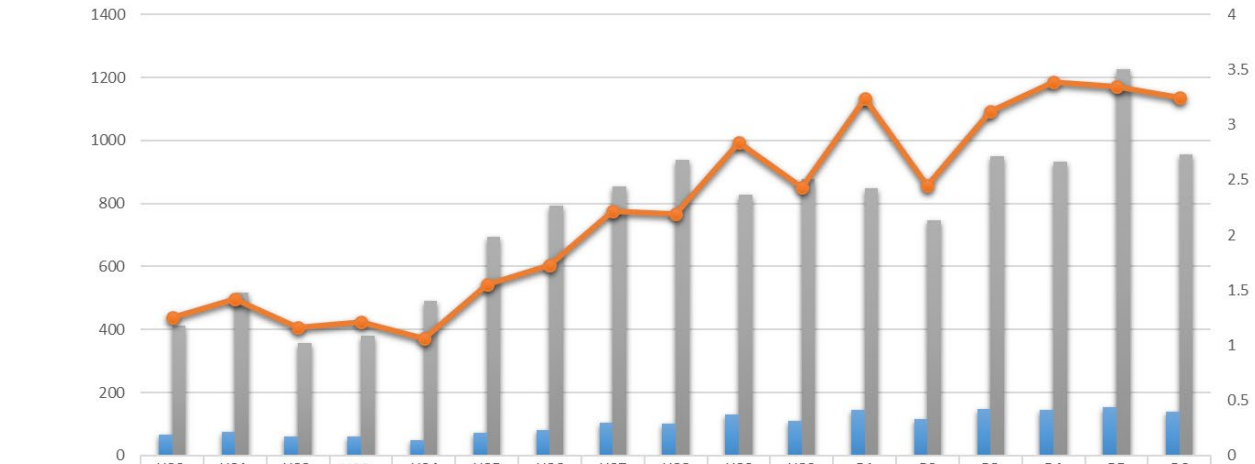


図2　令和6年度延べ面接回数

（3）経年変化

図 3 に，令和5年度までの来談件数，来談率，延べ来談回数の経年変化をグラフとして示した。令和 2 年度はコロナによる入構制限のあった年であるため，やや特殊な動きになっている。それを踏まえると来談率はここ数年3%～3.5%程度で高止まり気味である。延べ回数は過去最高だった令和 5 年度には及ばないが，956 件で過去 2 番目に多かった。令和 5 年度は来談率は例年とそう変わらないのに延べ回数が突出しており，継続利用が多かった（一人頭の利用回数が多い）と考えられる。その意味で全体の傾向からして，令和 5 年度が長期的なサポートが必要な学生が特に集中した年であったと言えるだろう。



	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
来談件数	67	75	59	59	49	72	82	105	102	130	110	144	116	148	146	154	140
延面接回数	412	518	358	380	491	695	793	855	939	829	878	848	748	951	934	1228	956
来談者率	1.25	1.42	1.16	1.21	1.06	1.55	1.73	2.22	2.19	2.84	2.43	3.24	2.45	3.12	3.39	3.35	3.25

図3　来談件数，述べ面接回数，来談者率の推移（年）

3. まとめと課題

以上，柏原・天王寺のカウンセリングルームで行っている個別面接（カウンセリング，心理療法，コンサルテーション）の集計結果を示した。

令和 5 年度の混雑からは例年並みに落ち着いたが，それでも利用率は高止まり感がある。また，令和 6 年度の集計を合わせてみることで，さかのぼって令和 5 年度の件数の突出した多さが改めて確認できた（図 3）。カウンセリングルームの実践は，基本的に申し込みや紹介といった援助要請が利用学生の側から示され，それに対してカウンセラーがその専門性で応答することによって成立する。実践の精度はその応答に関する専門性を各カウンセラーが研鑽を積みながら磨き続けることによって保たれており，その意味でもカウンセラー間の研修の意味合いも含めた情報交換や面接方針の確認，カウンセラー同士のピアサポートが欠かせず，運営面でもその機会を切らさないようにしている。

また，学生たちの援助要請をどのように促すか，それをいかに掬い上げるかは学生相談の入り口を広げる重要な視点である。これまでもカウンセリングルームでは，申込の敷居を下げるためにアンケートシステムを使った WEB での申し込みを運用する，オンラインでの相談対応を行う，各種ガイダンスや指導教員への説明等で学生たちの来談を促すなどの取り組みを行ってきた。実際に学生たちに来談の経緯を聞くと，ガイダンスでその存在を知った，中学高校時代からスクールカウンセラー利用や通院の経験があり，そこで利用を勧められたなどの経緯に加え，友人や指導教員，授業担当の教員に相談したところ，カウンセリングの利用を勧められたとの報告も多い。しかし学生たちは相談やカウンセリングを受けることへのスティグマ（相談を受けるのは自分が弱いからではないか，自分は例外的に問題のある学生なのではないか，など）を語ることもままある。あるいは「こんなこと相談するようなことじゃないんですけど」とエクスキューズを表明しなければ先に進めないこともある。それでもカウンセリングルームにやってくる学生たちは，自分がこのままでは先に進めないということを自覚し，起こっている問題を自分ごととして引き受ける力のある勇気のある学生たちである。その背後には，心理的な課題や葛藤を直視することを避け，さらにスティグマによって誰かに助けを求めることができない学生たちが潜んでいる。問題と向き合えなければ結局，解決への道から遠ざかり，劇的に環境（外部）が自分の都合の良い形に変化することを望むような，実現の見込みのない見通ししかもたらさない。

学生たちはカウンセリング利用以前に，日々大学生活で様々なソーシャルサポートや支援を受けている。このような，特に相談場面になかなか自主的にはやってこられないような，主体的に悩めない学生へのサポートや支援において，大学というコミュニティそのものが学生を中心とした支援のシステムとして機能することが重要である。カウンセリングルームはそのシステムの機能の強化や綻びの修復といった側面も担っているものと考える。つまり，学生への直接的で個別的なサポートがカウンセリングルームの実践の中心にあるが，それにとどまらず，学生を直接支える保護者や教職員のサポート機能を支えることもまた，役割として担っていると考えられる。今後，コンサルテーションや保護者対応もその視点から更なる充実が求められていくだろう。

2024年度（令和6年度）活動報告総括

コーディネーター　茂野仁美
カウンセラー　奥田紗史美

はじめに

修学支援センターの障がい学生修学支援ルームおよびカウンセリングルームの 2024年度（令和6年度）活動報告をうけ，総括する。

修学支援ルームでは，特に精神障害を理由とした出席困難，課題の未提出などがきっかけでつながるケースが多く，ルームの提供できる支援内容と当該学生からの期待に齟齬があり，そのすり合わせに苦労するケースもみられた。カウンセリングルームは全体的に令和 5 年度よりも利用者数は落ち着いていたが，それでも延べ回数は過去 2 番目に多く，相談は高止まりしている感がある。

修学支援センターでは，それぞれのルームの活動の枠を超えて，センター全体での支援活動も企画実施している。以下に，大教 FIKA，教育学研究科心理教育支援コースとの共催ワークショップ，FD 研修の各活動の報告を行う。

居場所活動（大教 FIKA）

専門的支援ではなく，より気軽に学生たちが利用できる居場所支援として，今年度も引き続き，大教 FIKA を開催した。活動は4年目に入った。N 棟カウンセリングルーム横の学生相談室を週1回開放し，ランチやお茶（お湯の準備有。セルフサービス），おしゃべり，休憩など自由に過ごしてもらえるスペースとした。畳のスペース（パテーション有り）や各種ゲーム，漫画，ヨギボーなどくつろげるグッズも導入している。開放日には教育・心理支援コースの院生と教員が在駐し，利用学生が安心して過ごせるよう見守ったり，話し相手になったりした。時間帯の関係上，ランチ会といった趣がつよいが，DAIGAKU というボードゲーム型教材（大学生活を疑似体験するもの）でスタッフと利用者全員で遊んで盛り上がる会もあった。学生に向けて月初めにライブキャンパスやメール，ツイッターなどで開室日の広報を行った。開講期間中は教員スタッフが2名以上常駐できる日は開室することを原則とした。利用者は各日約 1～2名程度で安定し，前年度同様，リピーターとなる学生もいた。特別企画を除く通常 FIKA の開室日は，前期が 5 月 15 日，22日，29日，6 月5日，12日，19日，26日，7月3日，17 日，後期は 11 月 13 日，20日，27日，12 月4日，18 日，1 月 8 日，15 日，29 日であった。院生の学外実習の都合や教員の調整などで隔週になる月もあったが，持続可能な支援として継続するために，スタッフが無理なく開室できるペースで今後も行うことを確認した。

ワークショップ

ワークショップ本年度は 2 月に 2 度，教育学研究科心理教育支援コースとの共催ワークショップを開催した。1 回目（2月 19 日（水）13 時～ みらい教育共創館 4 階）のテーマはリフレーミングであり，2 回目（2 月 21 日（金）13 時～ みらい教育共創館 5 階（プレゼンテーションコート））のテーマは傾聴であった。テーマ設定と準備，当日の講師はすべて大学院生が行い，修学支援センタースタッフは事前広報や当日の補助などの形で参加した。

資料:2 月 19 日開催分の広報チラシ

全学年
対象

その短所、実は長所の入り口かも

ポジティブ変換

修学支援センター 教育学研究科心理・教育支援コース
共催ワークショップ

2/19 水

時間
13:00〜14:30

場所
大阪教育大学天王寺キャンパス
みらい共創館 5階

定員
30名程度 ※定員に達した場合締切
当日参加も歓迎

持ち物
筆記用具

講師・ファシリテーター
心理・教育支援コース 大学院生

こんな方におすすめ

- 心理学に興味がある
- 教員志望で面接対策のヒントがほしい
- 就職活動で自己分析を深めたい

内容

1.リフレーミングとは
リフレーミングとは、物事の見方を変化させて色々な視点から捉えることです。

2.じぶんでリフレーミング
ワークシートを使って自身の短所を長所に捉え直す練習をします。

3.みんなでリフレーミング
グループワークを行います。各グループにファシリテーターの大学院生が入り、グループワークをサポートします。

【問い合わせ先】
大阪教育大学修学支援センター
TEL: 072-978-3479
mail: sienroom@bur.osaka-kyoiku.ac.jp
【共催】
大阪教育大学大学院教育学研究科 心理・教育支援コース

参加フォームは
こちらから

資料：2 月 19 日ワークショップ当日の様子

資料:2 月 21 日開催分の広報チラシ

修学支援センター、教育学研究科高度教育支援開発専攻心理・教育支援コース共催ワークショップ

聴き上手になりませんか

～傾聴・傾聴され体験～

友人や家族、またこれから先の進路で関わる人と話すときに、「自分の思いを受け止めてもらえた」と感じる聴き方を身につけておくことで、コミュニケーションが円滑に進んだり、相手の不安や苦悩を和らげることができます。
様々な場面に応用できる、話の聴き方を一緒に学びましょう。お気軽にご参加ください。

＼こんな方におすすめ／

- 聴き上手になりたい教員志望の方
- コミュニケーションスキルを磨きたい企業就職志望の方
- 傾聴に興味がある方

日時 2025 2/21(金) 13:00～14:30

対象 大学生・大学院生　対象 20名程度

場所 大阪教育大学天王寺キャンパス
みらい教育共創館 5階

プログラム内容
1. 傾聴とは
2. 傾聴のOK例・NG例
3. 傾聴を体験してみよう

※このワークショップは大学院生が講師を務めます
筆記用具をご持参ください

【問い合わせ先】
大阪教育大学修学支援センター
TEL: 072-978-3479
E-mail: sienroom@bur.osaka-kyoiku.ac.jp

▶参加申し込みはこちらから
https://x.gd/t2cls

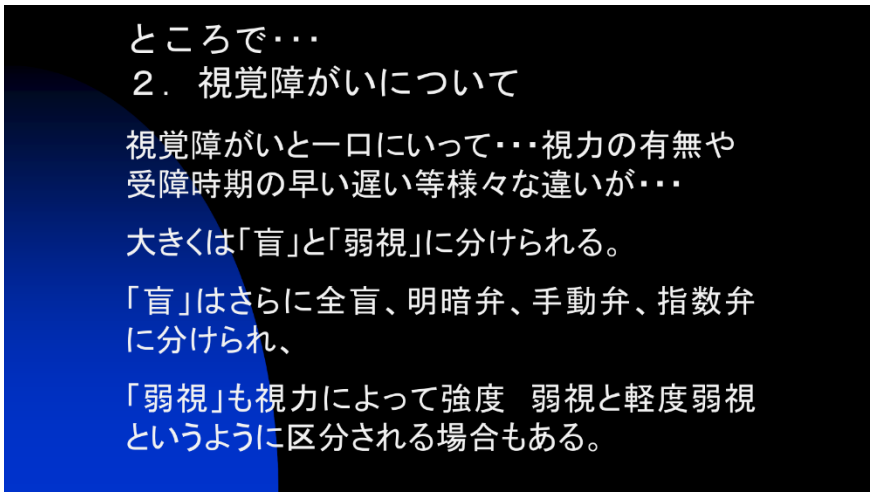
資料：2 月 21 日ワークショップ当日の様子

令和 6 年度修学支援センター主催 FD 研修

2024年12月11日（水）「授業担当教員・教職員が知っておきたい！視覚障がい学生支援とコンプライアンス」をテーマに，令和6年度修学支援センター主催FDを開催した。開催は本学教職員を対象に，Zoomによるオンライン形式であった。参加者は教職員合わせて 83 名であり，後日オンデマンドでの配信も行った。 今回は，視覚障がいに焦点を当て，学生が大学生活を送るにあたっての困りごとやそれらに対する支援をテーマに，特別支援教育部門 正井隆晶准教授，奈良里紗准教授よりご講演いただいた。

（1）視覚障がいについての基礎知識：正井隆晶先生

まず，正井先生より視覚障がいについての基礎知識をお話いただいた。視覚障がいとはどのような状態か，「盲」と「弱視」にわけて説明の後，視覚障がい学生が大学生活を送る上では文字へのアクセスと移動が課題であることが挙げられていた。その後，視覚障がい者の誘導（手引き）の基本形について詳しい解説があった。



（2）視覚障がい学生に対する合理的配慮：奈良里紗先生

次に，奈良先生からは支援機器のご紹介と，それらを使用する上での合理的配慮についてのお話の後，視覚障がい当事者としてご自身の学生時代の体験談から「痛学体験談」として，障がい者自身の自己理解や，18歳の学生が配慮を依頼することの大変さについてのお話があった。何に困っているのか，どんな支援が必要かと聞かれても，自分でもわからないしうまく説明できない，本人も配慮なのかわがままなのかがわかないこと，できないことを伝えるプロセスは心理的困難を感じやすい，さらに大学生になると，突然1対1で教授に対して配慮を依頼しないといけないことは学生にとっては大きなストレスを抱えるという。

障がい学生に合理的配慮を提供する際，前例がないことばかりでルールを変えなくてはならないことも起きてくる。多様性が社会に混ざるということは，ルールを変えていくことも伴い，抵抗感を感じたり，拒絶反応が出てしまうことも自然なことであるとしたうえで，相互理解の大切さやそのための対話を重ねていくことの大切さを述べられていた。

（3）事後アンケートより

事後アンケートは53件であった。テーマ，内容への満足度は非常に高かった。感想や意見には，実体験に基づくお話によって，視覚障がい学生の気持ちへの理解が深まったこと，参考になったという回答が非常に多く，今後の自身の学生指導に生かしていきたいというものもあった。また，何か力になりたいと思っても，どのようにしていいかわからずにいたが，手引きの仕方などの具体的な話から，今後は積極的に声をかけていきたいということや，支援においては状況を確認しつつ試行錯誤や対話が必要であることを感じたという感想もあった。この他，Moodle などのデジタルデバイスのユーザビリティが，視覚障がいで支援の必要な方に対しての検討が十分でないことへの気づきがあったという感想も見られた。

R5 年度の FD 研修でアクセシビリティ機器について紹介を行い，R6 年度はその内容をさらに深める形で視覚障がいに焦点を当て，FD 研修を企画した。今後の希望する内容については，R6 年度のような基礎と当事者の実体験に基づく内容はニーズが高いと考えられる。具体的には聴覚障がいをテーマに取り上げてほしいということが多くあった。そのほか，発達障がいや聴覚情報処理障がい，メンタルの不調を訴える学生への対応の内容が聞きたいというニーズも見られた。

令和6年度 修学支援センターの活動報告

	修学支援センター	障がい学生修学支援ルーム	カウンセリングルーム
4月	修学支援センター会議 大教FIKA（居場所活動）	入学式対応 オリエンテーション対応 授業担当教員への配慮依頼 障がい学生修学支援ルーム会議 サポート学生リーダーズ会議	オリエンテーション対応 教育実習オリエンテーション【オンライン】
5月	修学支援センター会議 大教FIKA（居場所活動）	サポート学生（在学生対象）ガイダンス（前期） 障がい学生修学支援ルーム会議 サポート学生リーダーズ会議 サポート学生のための研修	学生相談学会 カウンセリングルーム連絡会【オンライン】 保健センターミーティング
6月	修学支援センター会議 大教FIKA（居場所活動） 修学支援センター運営委員会（第1回）	サポート学生のための研修 アクセシビリティリーダー育成協議会総会 障がい学生修学支援ルーム会議 サポート学生リーダーズ会議	
7月	修学支援センター会議 大教FIKA（居場所活動）	近畿地区障害学生支援協議会 障がい学生修学支援ルーム会議 サポート学生リーダーズ会議 オープンキャンパス対応	
8月	修学支援センター会議	障がい学生修学支援ルーム会議 サポート学生リーダーズ会議 支援利用学生と個人面談実施	NAS研究会 カウンセリングルーム連絡会【オンライン】
9月	修学支援センター会議	アクセシビリティリーダー育成協議会総会【オンライン】 サポート学生（在学生対象）ガイダンス（後期） 支援利用学生と個人面談実施 支援利用学生の教育実習対応 関西障がい学生支援担当者懇談会【オンライン】 障がい学生修学支援ルーム会議 サポート学生リーダーズ会議	
10月	修学支援センター会議 大教FIKA（居場所活動）	支援利用学生と個人面談実施 障がい学生修学支援ルーム会議 サポート学生リーダーズ会議	カウンセリングルーム連絡会【オンライン】 保健センターミーティング
11月	修学支援センター会議 大教FIKA（居場所活動）	障がい学生修学支援ルーム会議 サポート学生リーダーズ会議	学生相談全国研修会
12月	修学支援センター会議 大教FIKA（居場所活動） FD研修	人権シンポジウム対応【オンライン】 アクセシビリティリーダー育成協議会総会【オンライン】 アクセシビリティリーダー認定試験【オンライン】 第20回日本聴覚障害学生高等教育支援（PEPNet-Japan）シンポジウム参加・学生ポスター発表・学生報告会 障がい学生修学支援ルーム会議	カウンセリングルーム連絡会【オンライン】 保健センターミーティング
1月	修学支援センター会議 大教FIKA（居場所活動）	障がい学生修学支援ルーム会議 サポート学生リーダーズ会議	全国学生相談研究会議【オンライン】
2月	修学支援センター会議 大教FIKA（居場所活動）（4回）	近畿地区障害学生支援協議会 障がい学生修学支援ルーム会議 サポート学生リーダーズ会議	NAS研究会 カウンセリングルーム連絡会【オンライン】
3月	修学支援センター運営委員会（第2回） 修学支援センター会議	アクセシビリティリーダー育成協議会総会【オンライン】 学位記・修了証書授与式対応 支援利用学生（入学予定）と個人面談実施 指導教員説明会 障がい学生修学支援ルーム会議 サポート学生リーダーズ会議	指導教員説明会 保健センターミーティング
備考	修学支援センター会議は 月に1回開催	障がい学生修学支援ルーム会議は月に1回開催 サポート学生リーダーズ会議は月に1回開催	カウンセリングルーム連絡会は 概ね2ヶ月に1回開催

修学支援センター　スタッフ一覧（令和6年度）

氏名	職名	所属
大内田　裕	センター長	特別支援教育部門
奥田　紗史美	カウンセラー （柏原担当）	養護教育部門
山口　修一朗	カウンセラー （柏原・天王寺担当）	非常勤
郭　知陽	カウンセラー （天王寺担当）	非常勤
中田　玲奈	カウンセラー （天王寺担当）	非常勤
茂野　仁美	コーディネーター （柏原担当）	特別支援教育部門
柏原　加奈	コーディネーター （天王寺担当）	学務部学生支援課
他　障がい学生修学支援ルーム担当職員２名（所属：学生支援課）		

大阪教育大学 修学支援センター 活動報告書 第５号

発行日　　令和７年８月１日
発行者　　大阪教育大学 修学支援センター
〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘 4-698-1
（代表）072-976-3211